



令和5年5月10日

※この資料は、令和5年5月1日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

※この資料は、県ホームページでも公開しております。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyouhou.html>

- ☆丁寧な代かきを行いましょ！
- ☆田植えは風のない穏やかな日に行いましょ！
- ☆適切な病害虫対策を実施しましょ！
- ☆草種に応じた除草剤を使用しましょ！

1 天気予報 (1か月予報5月6日～6月5日 (2023年5月4日発表) から抜粋要約)

・平均気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い、日照時間はほぼ平年並の見込みです。
 5月6日～12日は、低気圧や気圧の谷の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。5月13日～19日は、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。期間をとおして、天気は数日の周期で変わるでしょう。

2 本田準備

・漏水はありませんか？

モグラやネズミの穴がないか一度見回りを実施します。

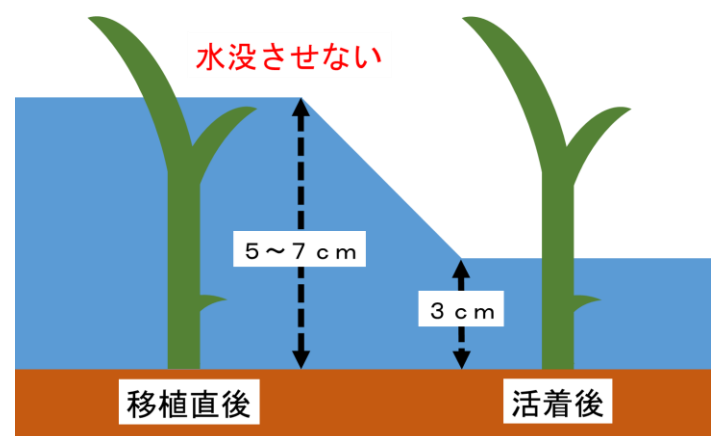
・均平はとっていますか？

耕起や代かきを丁寧に行い、ほ場の凹凸をなくすことで除草剤の効き目が上がります。

3 田植え・水管理

- ・早限は、苗が活動する温度である平均気温13度（田島で5月11日～15日）が目安です。
- ・植え付け本数は1株当たり3～4本とします。
- ・深植えは下位葉の分けつ発生を妨げるので避けます。

水管理の目安



(1) 移植～活着 (移植後5～10日)
 活着までは深水管理
 (5～7 cm、苗先が少し出る程度)

(2) 活着後
 田植後約1カ月までは浅水管理で
 分けつを促します
 日中・・・3 cm
 夜間・・・5 cm
 寒い日や強風日は深水管理 (7～8 cm)

4 初期害虫及びいもち病対策

薬剤名	使用時期	使用量	使用方法	適用病害虫	本剤の使用回数
Dr. オリゼ パディート粒剤	緑化期～ 移植当日	育苗箱 1箱あたり 50g	育苗箱の 上から 均一に散布	いもち病、 イネスズウムシ、 イネトヨイムシ	1回
	移植3日前 ～ 移植当日	高密度に播種する場合は 育苗箱 1箱あたり 50～100g			
トリプルキック 箱粒剤	移植3日前 ～ 移植当日	育苗箱 1箱あたり 50g	育苗箱の 上から 均一に散布	いもち病、 稲こうじ病、 紋枯病、 イネスズウムシ、 イネトヨイムシ	1回
		高密度に播種する場合は 育苗箱 1箱あたり 50～100g			

※育苗箱は 1箱 30×60×3 cm、使用土壌約 50を基準。

※置き苗は、いもち病発生源となるため早急に除去してください。

5 雑草防除

適用雑草を確認し、除草剤を選択します。また、ノビエの葉齢を目安に使用時期を逃さないように施用します。

分類	薬剤名	使用時期	使用量 (/10a)	使用 方法	本剤の 使用回数	適用雑草
初期 剤	ソルネット 1キロ粒剤 ※適用土壌： 砂壤土～埴土	植代後～移植前 7日	1kg	湛水 散布	1回	水田一年生雑草、ヘラ モダカ、ホトイ、マツバ イ、ミズガヤツリ
		移植直後～ノビエ 1葉期 (ただし、移植後 30日まで)				
初期 剤	エリジャン 乳剤	植代後～移植 7日前まで	300ml	原液湛 水散布	1回	水田一年生雑草、ヘラ モダカ、ホトイ、マツバ イ
		移植直後～ノビエ 1葉期 (ただし、移植後 30日まで)				
中 期 一 発 剤	アッパレ Z ジャンボ	移植後 3日～ノビエ 3葉期 (ただし、移植後 30日まで)	パック 10個 (400g)	水田に パック のまま 投げ入 れる	1回	水田一年生雑草、ウカ ワ、オモダカ、クログワイ、 ズイ、ヘラモダカ、ホトイ、 マツバイ、アオミドロ・藻類 による表層剥離等
	ベッカク 1キロ粒剤	移植直後～ノビエ 3葉期 (ただし、移植後 30日まで)	1kg	湛水 散布	1回	アオミドロ・藻類による 表層剥離、一年生雑 草及び多年生雑草

- ・ 施用時の水深は**粒剤で 3～5 cm、フロアブル剤で 5～7 cm**が目安です。
- ・ **散布後 1 週間は必ず止水**し、除草剤の処理層を作りましょう。
- ・ 田面が露出しないように、ゆっくり差し水を行います。

☆安全な農作業に向けて、家族や近く
で作業をされている方など、お互いに
声を掛け合いましょう！
春の農作業安全運動実施中！
(令和 5 年 4 月 1 日～5 月 3 1 日)

次回発行は 6 月中旬
(水管理、雑草防除、病害虫対策)